

平成30年6月27日現在

機関番号：27301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2017

課題番号：15K02868

研究課題名(和文)大陸情報と江戸幕府の对外政策

研究課題名(英文)Continental information of China and the external policy of the Edo shogunate

研究代表者

松尾 晋一 (MATSUO, SHINICHI)

長崎県立大学・地域創造学部・准教授

研究者番号：40453237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は明清交替の情報分析を通じて、大陸からの諸情報が日本に流通していくメカニズムを解明し、その上で幕府による情報の受容と活用を史料から読み解き、東アジア社会と日本との関係理解を見直すことを目的とする。当該期の大陸情報は、対馬、長崎、琉球から入ったが、朝鮮-対馬経由の北ルートの情報分析は、南ルート(長崎、琉球)に比べ著しく立ち後れていた。ゆえにまず、朝鮮-対馬経由「唐兵乱」関係記録の収集とその伝達構造分析を行った。次に大陸情報の質の分析と流通、幕府の情報受容と活用、を課題とし、導き出された成果をふまえて、当該期の東アジア情勢に対する日本の对外政策の展開を情報との関係で動的に読み解いた。

研究成果の概要(英文)： The purpose of this research is to clarify the mechanism by which information from the continent circulates in Japan through information analysis of Ming and Qing exchange information, then to understand the acceptance and utilization of information by the Shogunate from historical materials, It is to review the understanding of relations with Japan.

Continental information of the period entered from Tsushima, Nagasaki and Ryukyu. However, the information analysis via Tsushima was standing far behind Nagasaki and Ryukyu. Therefore, we first gathered a record of "Tang Dynasty" via Tsushima and analyzed its transmission structure. Next, distribution and analysis of the quality of the continent information, the shogunate of the information receptor utilization, an object of the present invention, based on the derived outcomes, dynamics of the development of the foreign policy of Japan for East Asia of the period in relation to the information I read and understood.

研究分野：日本近世史

キーワード：情報 唐兵乱 江戸幕府 对外政策 対馬 長崎 琉球 明清交替

## 1. 研究開始当初の背景

申請者は、これまで17世紀から19世紀初頭の幕府の異国船対応に注目し、その展開から東アジアの国際環境と日本との関係について研究を進めてきた。そして今年度は、「幕府対外政策と東アジア再編」をテーマとして発表する機会を得たが、朝鮮・対馬経由の大陸情報が幕府対外政策に与えた影響に関する分析を課題として残した。

この手の成果としては、日朝関係史で中村榮孝、ロナルド・トビの研究などがあるが、情報の質や情報流通の分析は不十分であり、長崎経由の『オランダ風説書』『華夷変態』(唐人風説書)に関する分析や琉球経由の情報分析と比較すれば著しく立ち後れている。大陸情報は対馬、長崎、琉球からそれぞれ入った。しかし、朝鮮・対馬は北京からの北ルート、唐船・オランダ船-長崎、琉球-薩摩は福建や台湾などからの南ルートといった違いがある。この点をふまえた比較や幕府による情報の変化と活用、そして時代的な変化を分析しなければ、大陸-日本間の情報流通の実態は解明できないと考えるが、こうした問題関心からの研究はない。

この点を克服できる素材として、本研究では17世紀の明清交替に関して分析を行う。具体的には、対馬宗家で括られた17世紀の「唐兵乱」(明清交替)、つまり後金国の朝鮮半島への侵入、李自成の北京陥落と清軍の入城、三藩の乱の動きに関する情報の分析を手掛かりにして、東アジアの情報社会における対馬、長崎、琉球の機能的特質や情報流通のメカニズム解明、幕府による大陸情報の受容や対外政策へ影響、そしてそれらの展開を動的に明らかにしていく。

## 2. 研究の目的

### (1) 朝鮮-対馬経由「唐兵乱」関係(明清交替)記録の収集と伝達構造の分析

倭館(朝鮮:釜山)で収集した大陸情報は、府中(対馬:厳原)そして江戸(江戸屋敷→幕府)へと伝えられた。この伝達ルートは知られているものの、それぞれの伝達段階での情報操作の有無や記録などは、これまで分析されてこなかった。そのため韓国国史編纂委員会、慶應義塾大学、県立対馬歴史民俗資料館などに所蔵されている対馬宗家が「唐兵乱」として括った記録とそれに関連する史料の収集を行い、記録内容を伝達ルートに当て

はめて情報を復元し、情報の伝達構造を解明していく。

### (2) 大陸情報(明清交替)の質の分析と流通実態の解明

明清交替に関する情報は、北から北京-朝鮮-対馬-江戸ルート、唐船(東南アジアも含む)-長崎-江戸ルート、オランダ船-長崎-江戸ルート、そして北京-福建-琉球-薩摩-江戸ルート、の4つのルートから日本に入ってきた。以外は近年飛躍的に研究が進んでいるが、残念なことに～の比較分析がない。そこで(1)の成果をふまえて、後金国の朝鮮半島への侵入、李自成の北京陥落と清軍の入城、三藩の乱の動きに関する情報を～で比較し、それぞれの特質を解明したうえで、大陸-日本間で諸情報が流通していくメカニズムを解明する。

### (3) 幕府の情報受容と活用

扇子に例えると骨にあたるところの分析を(1)・(2)とすると、先行研究のような、一本の骨の要にあたるところを分析するのではなく、骨が重なった要部分を分析する。具体的には(2)の成果と、「朝鮮御用」を担った老中や林家をはじめとした幕閣の関係文書の収集(国文学資料館、東京大学史料編纂所ほか)・分析を通じて、幕府が得た諸情報をどう活用して政策に取り組んだのか、江戸の政治空間における海外情報処理システムの構図をまず確認する。そして、収集情報をもとに政策ができるプロセスの政治状況を解明する。

### (4) 明清交替と日本

当該期の東アジア情勢と日本の関係は、相互に連動する関係にあったことがこれまでの研究で解明されてきている。そして諸国家に類似性として括ることのできる政策が同時期にみられたことが注目されてきた。これに対して本研究では、(1)～(3)の成果をふまえ、幕府の対外政策から外交主体性の有無、あるいは周辺諸地域との距離感の変化などを再評価する作業を行い、先行研究で捉えられている明清交替を核とする東アジア情勢の変化と日本の関係を見直していく。

## 3. 研究の方法

上記で設定した課題に従い作業を進めていくが、実施する調査では資料の撮影

及び調書の作成を行う資料収集作業を行う。

こうした作業を毎年行うが、得たデータをもとに、《平成 27 年度》は朝鮮-対馬經由「唐兵乱」関係記録の収集と伝達構造を検証する。その成果をふまえて《平成 28 年度》は、朝鮮-対馬の北ルートと南ルート（長崎・琉球）との情報比較分析から明清交替情報の質と流通実態を解明していく。そしてここで得られた成果をふまえて、《平成 29 年度》には、幕府の情報受容と活用を解明するための分析を行い、先行研究とは異なる東アジアの変容への日本の対応の時代的特質を読み解いていく。

#### 4. 研究成果

##### (1) 朝鮮-対馬經由「唐兵乱」関係（明清交替）記録の収集と伝達構造の分析

朝鮮ルートからの「唐兵乱」の風説に関する記録（韓国国史編纂委員会所蔵史料、慶應義塾大学三田メディアセンター所蔵史料）の分析を通じて、残存史料の状況把握と情報の質が解明され、「唐兵乱」情報の伝達をめぐる研究を一定程度進めることができた。

具体的には、朝鮮-対馬經由「唐兵乱」関係（明清交替）記録を用いて、朝鮮から伝わった情報を宗家が江戸へ伝えたルートを確認し、江戸でその情報共有がどの程度なされていたのか分析した。その結果、従来の研究で用いられたで用いられた林春斎・鳳岡父子が編纂した『華夷変態』に収録されていない情報があることがわかり、林家に宗家の情報が全て伝わっていたわけではないことが明らかとなった。つまり、『華夷変態』のみで幕府の対外政策を分析することだけでは不十分であることが解明できたのである（『華夷変態』と対馬宗家からの「唐兵乱」情報」長崎県立大学国際社会学部『研究紀要』創刊号、2016.3）。

##### (2) 大陸情報（明清交替）の質の分析と流通実態の解明および幕府の情報受容と活用

当初、明清交替を例に分析することを予定していた。しかし、資料の残存量が多く、大陸情報の政治的影響だけではなく社会的影響も確認できる台湾で起きた朱一貴の乱情報の日本における流通分析を試みた。

その結果、長崎、対馬、薩摩のそれぞれの関係と位置づけ、および社会への海外情報の拡散状況が解明できた（「近世日本における海外情報の入手ルートと質 - 朱一貴の乱（台湾）情報を事例に - 」長崎市長崎学研究所紀要『長崎学』創刊号、

2017.3）。

この他、明清交替期の後の時代ではあるが、朝鮮有事の海外情報が局地的ではなく全国的な幕府対外政策に与えた影響に関する分析結果を公表することができた（「寛政九年の対馬情報と幕府の異国船対策」（『日本歴史』826号、2017.3）。

##### (3) 明清交替と日本

明清交替が起きた時代の日本と中国大陸との関係に関して、日清を股にかけて抜荷で活躍した金右衛門に関する史料（天理大学附属天理図書館所蔵）の分析を通じて行った。

これにより、従来表面上の、あるいは正規のともいえる日本と中国大陸の関係ではない側面が新たに明らかになった。「抜荷」目明し金右衛門の「抜荷」知識」（『長崎県立国際情報学部研究紀要』第16号、2015）、「近世日本の境界と日本人」（『東アジア評論』第8号、長崎県立大学東アジア研究所、2016）では、鎖国下で日本人と異国人とが自由に接触できない中で人と人が接点を持つ方法やモノを受け渡す方法の実例が解明できた。特に大陸（清）在住日本人の発生理由、具体的な生活状況が解明できた点などは、17～18世紀の東アジア社会と日本の関係を理解する前提として極めて重要な例であり、一定の成果をあげることができたと考える。

また、幕府の対外政策から外交主体性の有無、あるいは周辺諸地域との距離感の変化などを再評価する作業を行い、先行研究で捉えられている明清交替を核とする東アジア情勢の変化と日本の関係を見直す作業を行った。

殊に、明清交替期における漂流民から得た「無人島（小笠原）」情報への幕府の関心は、大型船（「唐船造」の船）の造船や「無人島」へ派遣に繋がったが、幕府の外の世界及び未知の世界への無関心を否定する事例として、またそれまでの禁止事項を将軍・幕府の権力は容易に無視できる事例として、幕府の対外政策を考える上で極めて重要であることが確認できた（「本光寺所蔵「無人島之図」」（『長崎市長崎学研究所研究紀要』第2号、2018.3））。本研究の目的は、明清交替の情報分析を通じて、大陸からの諸情報が日本に流通していくメカニズムを解明し、その上で幕府による情報の受容と活用を史料から読み解き、東アジア社会と日本との関係理解を見直すことであったが、最終的に至る分析対象が十分ではないことを証明した。しかしこの証明は、決して本研究を破綻させたものではなく、当該期の幕府による海外情報の受容と活用に関する知見を得ることができた点で意味がある。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 10件)

- ・松尾晋一「目明し金右衛門の「抜荷」知識」『長崎県立大学国際情報学部研究紀要』16、23-33頁、2015.
- ・松尾晋一「『華夷変態』と対馬宗家からの「唐兵乱」情報」『長崎県立大学国際社会学部研究紀要』創刊号、1-12頁、2016.
- ・松尾晋一「近世日本の境界と日本人」『東アジア評論』8、57-64頁、2016.
- ・松尾晋一「寛政九年の対馬情報と幕府の異国船対策」『日本歴史』826、36-54頁、2017.
- ・松尾晋一「近世日本における海外情報の入手ルートと質 朱一貴の乱(台湾)情報を事例に」『長崎市長崎学研究所紀要 長崎学』創刊号、23-34頁、2017.
- ・松尾晋一「松本英治著『近世後期の対外政策と軍事・情報』」『日本歴史』830、105-107頁、2017.
- ・松尾晋一「近世 対外関係 蝦夷・琉球」『史学雑誌 2016年の歴史学界 回顧と展望』126編5号、124-125頁、2017.
- ・松尾晋一「長崎の「記憶と歴史」に関する学際的研究の可能性」『図書新聞』3318、8頁、2018.
- ・松尾晋一「天領の村々」『浦上四番崩れから150年を迎えて』記念講演集「長崎純心大学博物館研究」22、7-29頁、2018.
- ・松尾晋一「本光寺所蔵「無人島図」」『長崎市長崎学研究所紀要 長崎学』2、73-82頁、2018.

[学会発表](計 3件)

- ・松尾晋一「天領の村々」、純心長崎学講座(長崎純心大学長崎学研究所)、2017.5.25.
- ・松尾晋一「長崎警備」、ながさき歴史の学校「長崎学のすゝめ」(長崎市文化観光学部文化財課)、2017.7.25.
- ・松尾晋一「島原城主松平家と長崎御用」、歴史と文化の友好交流シンポジウム(愛知県幸田町)、2017.11.11.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

松尾晋一(MATSUO SHINICHI)

長崎県立大学、地域創造学部、准教授

研究者番号：40453237